

氷見市地域おこし協力隊

活動報告

令和8年3月

第10期 論田・熊無地区 竹岡怜音

竹岡怜音

TAKEOKA REO

PROFILE



2001/07/02 神奈川県中郡大磯町出身

2020/04 神奈川県立小田原高等学校 卒業

2024/03 武蔵野美術大学造形学部建築学科 卒業

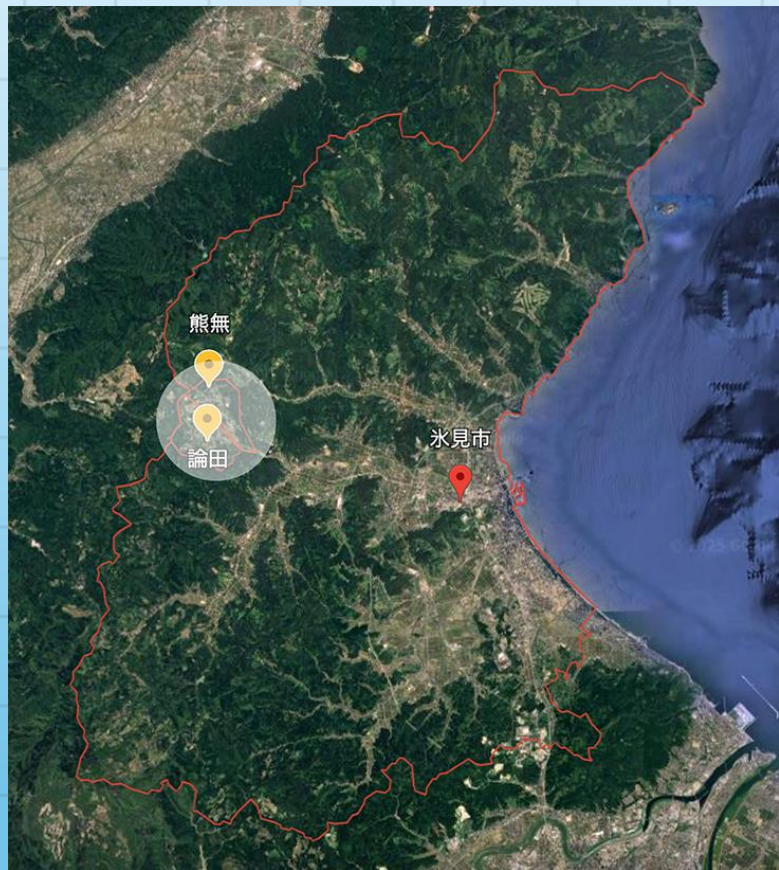
2024/04 富山大学人文社会芸術総合研究科 入学

2025/04 同大学院 休学 → 氷見市地域おこし協力隊10期生

活動場所 論田・熊無地区

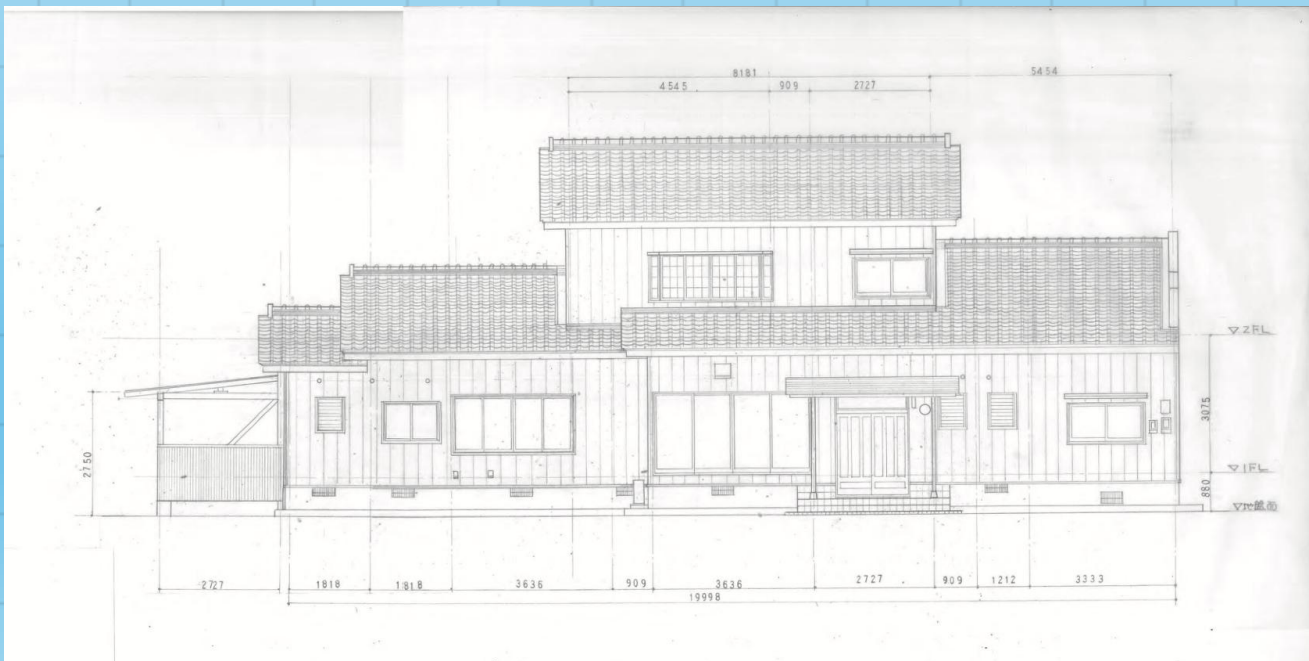
活動拠点

↓ろんくまのいえ 食彩ふるさと



mission

- ①草もちの販路拡大、付加価値向上のための**SNS**等での情報発信、企画立案
- ②草もちの製造加工、改善点等の提案（人員確保、生産性の向上）
- ③令和7年度整備予定の宿泊体験交流施設（草もち加工場も移転予定）の立ち上げを目指し運営計画の検討（1年目）、実際の運営（2年目以降）
- ④その他、「食」などの地域資源を生かした地域活性化に関する取組みの試行

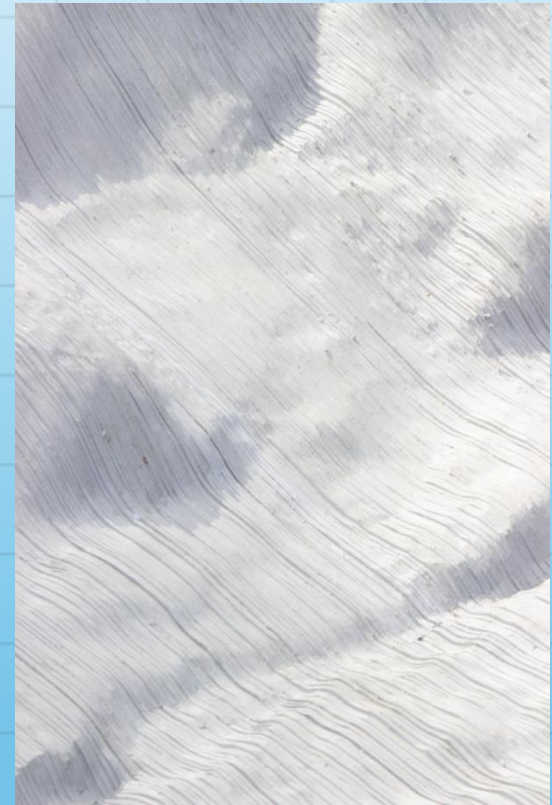
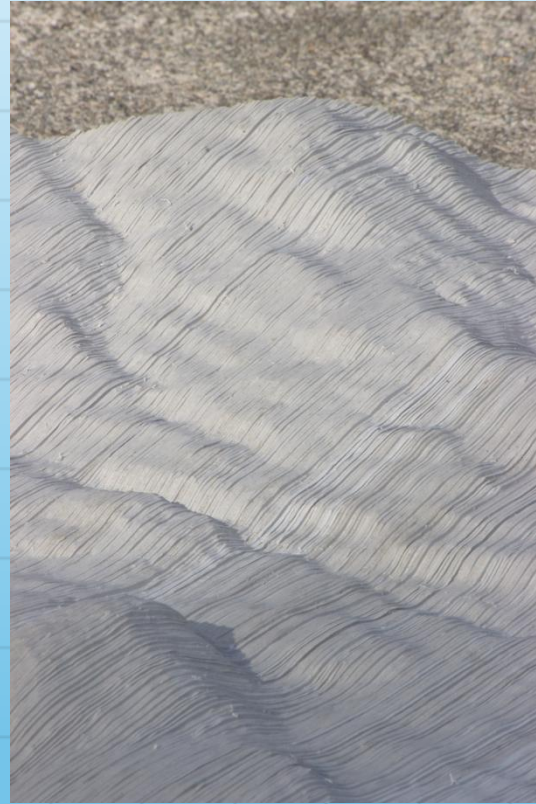
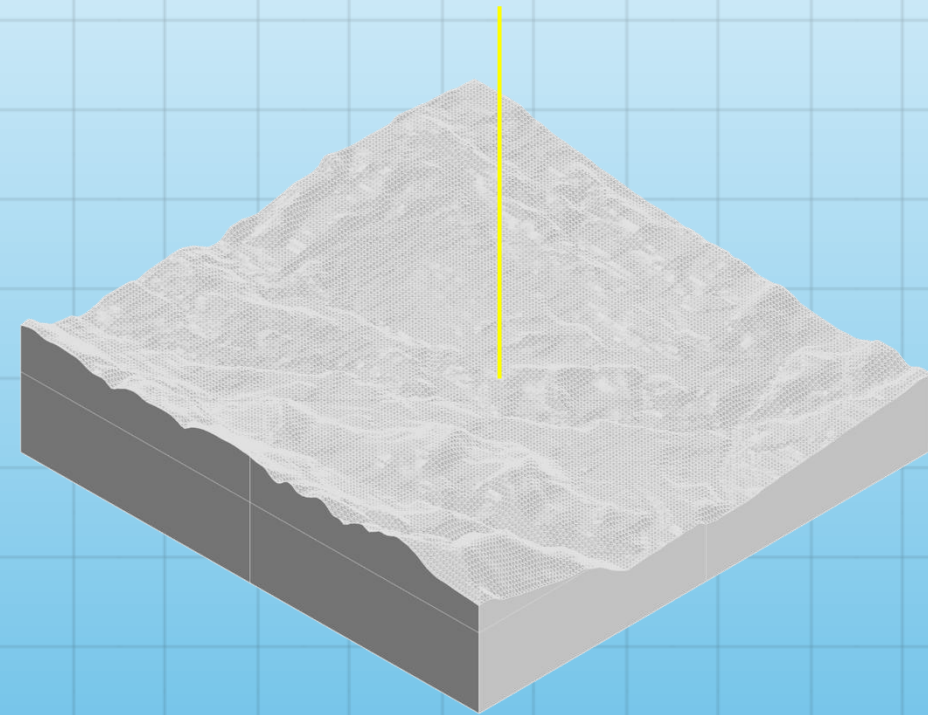


現在の活動

- ・ 草もちに関する業務（製造・配達）
- ・ 旧荒屋商店に移設される「食彩ふるさと」
のレイアウト・設計
玄関ポーチの設計・ワークショップ形式の施工
- ・ 旧荒屋商店改修後の運営計画のリサーチ
- ・ 論田・熊無地域の地域資源を記録
⇒地域の価値を再発見するアーカイブ制作

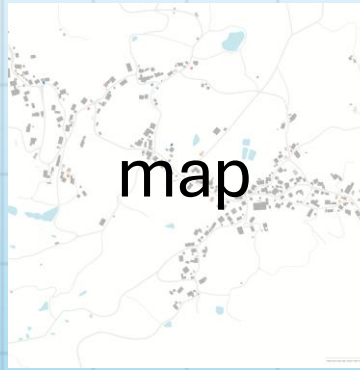
—集落のアーカイブ（地域模型）の制作—

集落の中心地であるろんくまのいえ



ろんくまのいえを中心とした集落の3Dモデルをもとに模型を作成

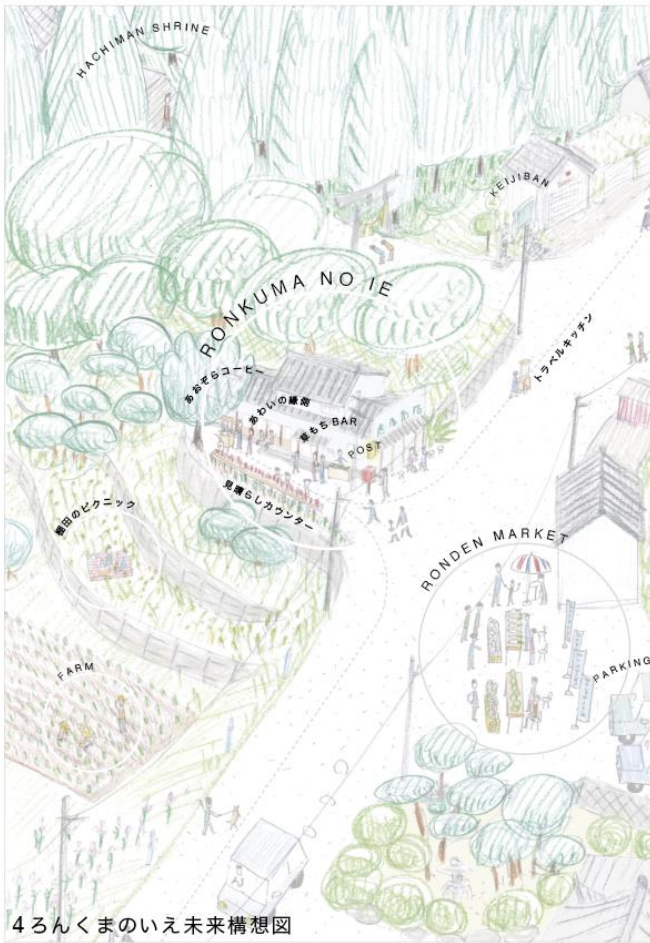
—集落のアーカイブ（zine）制作—



地域の模型や集落の写真、
イラストなどをまとめた
アーカイブブック

Archive book

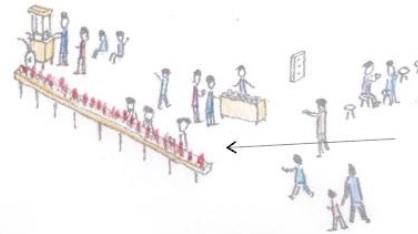
一地域の方々に向けた今後のろんくまのいえの展望イメージスケッチー



4 ろんくまのいえ未来構想図

トラベルキッチン

インフラに依存しない可動式のキッチン。気持ちの良い天気の際は外にでて、さまざまな場所で論田の風景をたのしみながらお茶を飲むことができる。

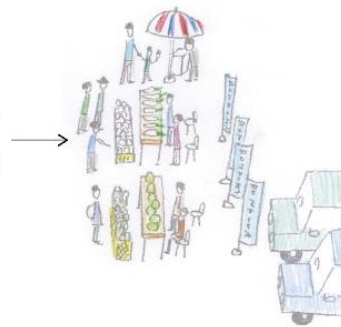


見晴らしカウンター

旧荒屋商店の南側にあるスリパチ状の田畑と家々を見渡し、既存の花壇を持ち上げることで新たな風景とつどい場をつくる。

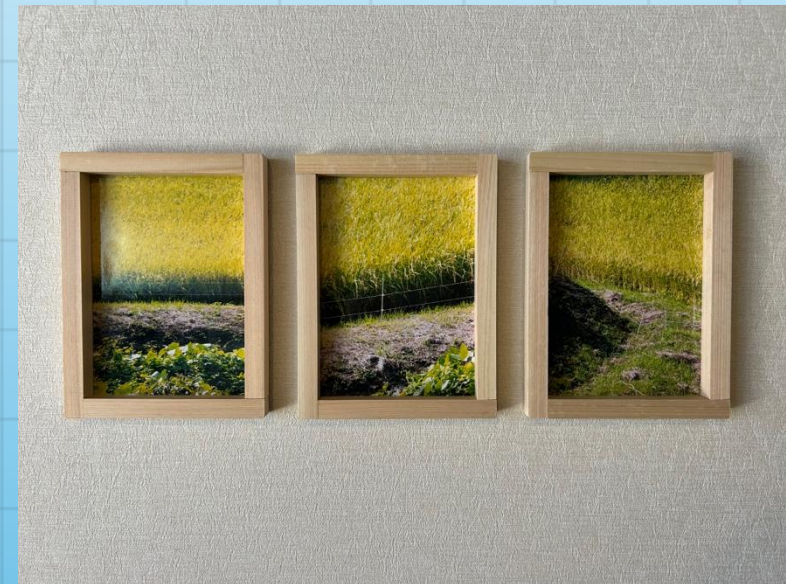
ろんくまマーケット

この地域でとれた野菜を中心にちいさな市場を時々開く。食を通じて人々の交流とこの地域のことを知るきっかけとなる。



1 「集いの場」としての交流スペースの提案

一宿泊体験交流施設の魅力向上のためのインテリア計画・プロダクト制作



・ commonspaceのインテリアセレクト
レイアウト

・ 富山市八尾町の和紙を使った照明の
デザインと制作

・ commonspaceの目印となる論田の写真を飾るた
めの写真フレームのデザインと制作

今後行いたい活動

○宿泊体験交流施設の運営 イベント企画実施参加 さまざまなメディアでの発信

○前年度企画した地域の方々が利用できる屋外空間の計画と空間づくりのための制作やワークショップの開催

○食彩ふるさとでの草もちの直売体制の設立と付加価値向上のための販売形式の計画実施

活動の中で感じたこと

- ・この旧荒屋商店改修プロジェクトがまずは地域の方々にとってどのように還元され、それが宿泊者にも良い影響を及ぼすようなプログラムを今一度考え、綿密に練っていく必要があると思いました。
- ・草もちに関することは、実際に食彩ふるさとのメンバーとして活動していることで、ミッションの理想と現場の現状とはまだギャップがあることがわかりました。しばらくは通常業務を手伝いながら発信に関してのいくつかのアプローチを考えることからはじめたいと思っています。
- ・地域の方々と交流する中で、みなさんの「農」と「食」に関する知見の深さをとても感じました。この地域の大きなポテンシャルであるためこれを活かした企画ができたらと思っています。
- ・現在行っている「地域の価値を再発見するアーカイブ制作」にも可能性を感じており、地域の発信だけでなく今後の宿泊体験交流施設のアップデートの大きなヒントにもなると考えています。